

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	211人	社会	211人	数学	211人
	理科	212人	英語	211人		

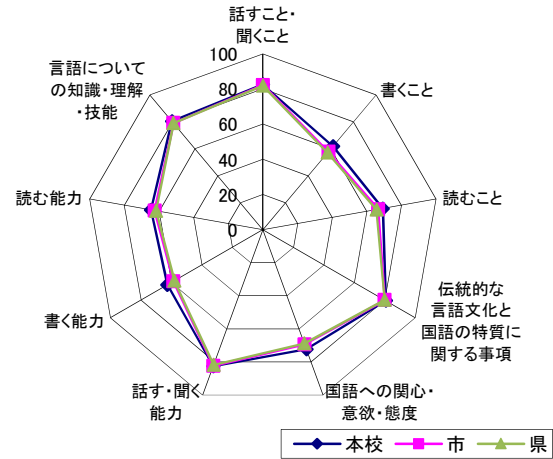
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.6	82.3	81.8
	書くこと	62.0	58.0	57.2
	読むこと	69.2	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.7	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	72.3	69.4	68.8
	話す・聞く能力	82.6	82.3	81.8
	書く能力	62.7	58.8	58.1
	読む能力	64.6	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	80.4	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

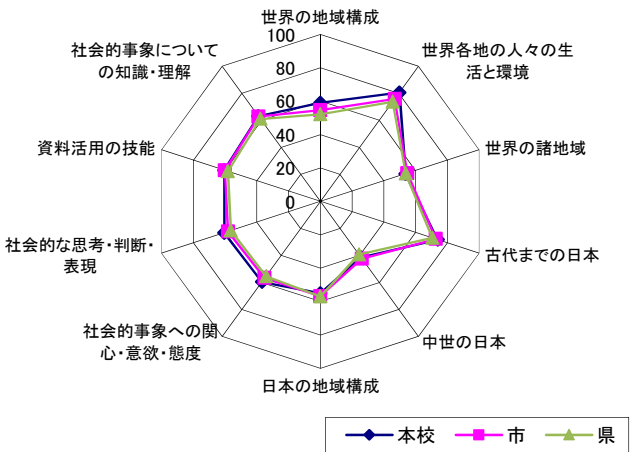
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県平均より0.8ポイント高く、市平均より0.3ポイント高い。 ○話し手が工夫しながら話していることに気付き、その点に注意して聞き取ることができる。 ●「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる」の項目について、市の平均を下回っている。	・話を聞く時の姿勢や態度など、基本的なことを繰り返し指導し、徹底していく。 ・人前で話す場面を意図的に設定し、原稿の文章構成や抑揚などを意識させた指導をしていく。
書くこと	平均正答率は県平均より4.8ポイント高く、市平均より4.0ポイント高い。 ○条件に合った文章構成で書くことができる。 ●無回答者が、一定数いる。	・自分の考えを書く場を意図的に設定し、書くことについての抵抗感を減らしていく。 ・根拠を明確に示すことを繰り返し指導し、説得力のある文章を書けるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は県平均より3.6ポイント高く、市平均より2.6ポイント高い。 ○説明文、小説ともに、県平均を上回っている。 ●「登場人物の心情の変化をとらえることができる。」の項目は、市平均と同じポイントの正答率である。	・文章構成に即した読み取り方が身につくよう、前後のつながりを意識させた指導をしていく。 ・文章だけでなく、図やイラストからも必要な情報を読み取ることができるよう、教材を工夫した指導を進めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県平均より0.8ポイント高く、市平均より0.7ポイント高い。 ○漢字の書き取りにおいては、市平均と比べ、正答率の高い漢字が多い。 ●書き取りの一部の正答率が、市平均を下回っている。	・新出漢字を練習するばかりでなく、既習の漢字を振り返る時間も設定していく。 ・漢字確認テストを定期的に行い、語彙力と漢字力の拡充につなげていく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	59.1	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	80.6	75.9	73.7
	世界の諸地域	53.6	54.8	53.9
	古代までの日本	73.9	72.7	70.5
	中世の日本	41.4	42.4	39.3
	日本の地域構成	55.0	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	59.5	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	60.5	58.1	56.4
	資料活用・技能	60.5	60.1	58.2
	社会的な事象についての知識・理解	63.2	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

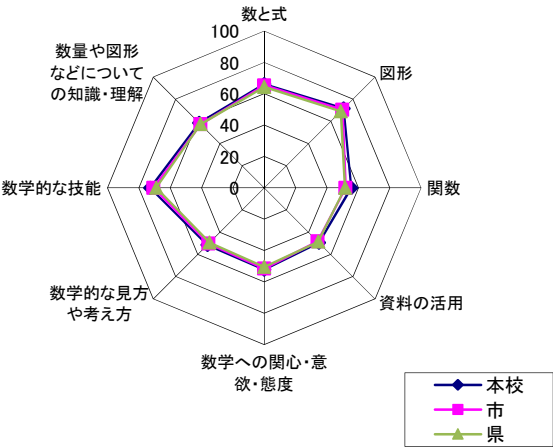
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	平均正答率は県平均より6.8ポイント高く、市平均より4.4ポイント高い。 ○メルカトル図法・モルワイデ図法・正距方位図法の特徴をよく理解し、地図を使った読み取り問題の正答率が高い。	・今後も、授業で様々な地図を用いて、世界の国々や地域区分などを読み取らせる活動を継続し、資料活用・技能を高めていく。
世界各地の人々の生活と環境	平均正答率は県平均より6.9ポイント高く、市平均より4.7ポイント高い。 ○世界各地の生活の様子について、複数の資料をもとに判断する問題、雨温図から気候帯を判断する問題の正答率が高い。	・雨温図から読み取った自然環境と写真資料や動画資料、インタビュー記事など様々な資料から読み取れる人々の生活を結び付けながら、社会的な事象についての知識・理解を深めていく。
世界の諸地域	平均正答率は県平均より0.3ポイント低く、市平均より1.2ポイント低い。 ○オーストラリアの貿易相手国の変化を答える問題やモノカルチャー経済の国が抱える課題について、資料をもとに考察し表現する問題の正答率が高い。 ●北アメリカ州の地形を断面図でとらえる問題やヨーロッパ州の農業の特徴を判断する問題の正答率が低い。	・地名や地形などの理解には、白地図等を使って丁寧に指導し、授業中に反復練習を徹底することで更なる定着を図る。 ・単元の最後に、各地域の特徴を振り返りまとめる活動に力を入れ、社会的な思考力・判断力・表現力を育成していく。
古代までの日本	平均正答率は県平均より3.4ポイント高く、市平均より1.2ポイント高い。 ○「聖徳太子が目指した政治」や「国風文化」について理解力を問う問題や「奈良時代の人々の負担」について複数の資料をもとに考察する問題の正答率が高い。	・小学校での学習内容を大切にしつつ、社会的な事象の知識・理解については授業中に反復練習を徹底することで、更なる定着を図る。
中世の日本	平均正答率は県平均より2.1ポイント高く、市平均より1.0ポイント低い。 ○「御恩と奉公」や「戦国大名による支配」について、資料をもとに把握したり考察したりする問題の正答率が高い。 ●「建武の新政」と資料とを関連付ける問題の正答率が低い。	・今後も、単元の最後に各時代の特徴を振り返りまとめる活動を丁寧にを行い、歴史の流れを大きく捉え、自分の言葉で表現する時間を確保していくことで、社会的な思考力・判断力・表現力の向上を図る。
日本の地域構成	平均正答率は県平均より1.9ポイント低く、市平均より1.7ポイント低い。 ○排他的経済水域と国土面積について、複数の資料をもとに判断する問題の正答率が高い。 ●日本の標準時子午線について、正しい経度を答える問題の正答率が低い。	・日本の領域や標準時子午線などは地図を用いて読み取らせる活動を継続していくとともに、時事問題にも触れ関心を高めていく。 ・資料活用・技能を高めていくために、一つ一つの資料の読み取りを丁寧に繰り返し行っていく。その後、複数の資料を関連させて読み取らせ、出題の意図に沿った解答となるよう助言を行っていく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.2	65.4	64.4
	図形	71.6	70.5	69.0
	関数	55.5	51.9	51.5
	資料の活用	49.3	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	52.1	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	51.3	50.2	49.4
	数学的な技能	72.7	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	58.7	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

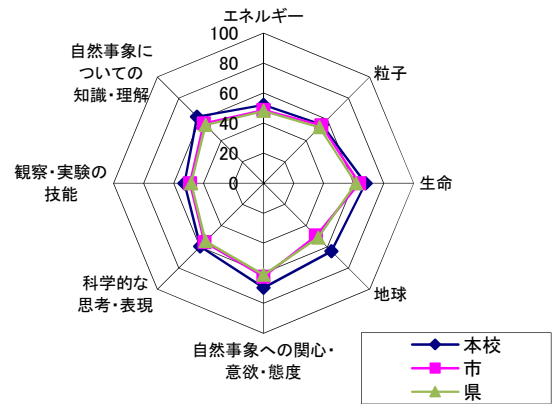
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は県平均より1.8ポイント高く、市平均より0.8ポイント高い。 ○正負の数や一次式の四則計算、一次方程式を解くことがよくできている。反復練習を通して、正確に計算する力が身に付いている。 ●数量を文字を使って表すことや文字を使って数学的に説明すること、1次方程式の解の意味について課題が見られる。	・今後も計算の反復練習を行い、正確に計算する力を身に付けていく。また単元テストを活用し、計算を早く処理する力も身に付けていく。 ・数量を文字を使って表すことについて、文字を具体的な数に置き換え、どんな式で表すことができるか確認した後、数を文字に戻す指導を丁寧に行っていく。1次方程式の解の意味について、式の成り立ちから解の考え方までを丁寧に確認していく。
図形	平均正答率は県平均より2.6ポイント高く、市平均より1.1ポイント高い。 ○平面図形における移動や垂線の性質、空間図形における平行や垂直、ねじれの位置の関係についてほぼ理解している。 ●おうぎ形の面積の求め方や、底面積と高さが等しい柱体と錐体の体積の関係について課題が見られる。	・空間図形における直線や平面の位置関係は、模型やデジタル教科書などを用いて可視化し、体験することで理解を深めていく。 ・面積や体積の求め方をただ公式として覚えさせるのではなく、何故そうなるのかを確認しながら定着を図っていく。また、円錐の表面積は、おうぎ形と関連しているので、既習事項を確認しながら指導していく。
関数	平均正答率は県平均より4.0ポイント高く、市平均より3.6ポイント高い。 ○比例のグラフの読みとり方やかき方についてはほぼ理解している。 ●関数についての理解に課題が見られる。また、比例・反比例の性質や式の求め方については、得手不得手が2極化している。	・表の読み取り方、式の求め方、グラフのかき方が適切に処理できるように、比例・反比例の表、式、グラフのつながりに注目した指導をしていく。 ・日常生活と関連した比例・反比例の教材を用いて、ただ処理する力だけでなく、関数との関連や既習事項を使ってどのように活用できるかを考えさせる力を育てていく。
資料の活用	平均正答率は県平均より0.7ポイント高く、市平均より1.2ポイント高い。 ○相対度数や範囲、最頻値などの基礎的な用語やその意味をほぼ理解している。 ●代表値やヒストグラムから特徴を読み取り、数学的に説明することや結論と着目すべき代表値を結びつけて説明することについて課題が見られる。	・日常生活と関連した場面を通して、基礎的な用語やその意味、使い方を確認し、定着を図っていく。 ・複数の資料を比較し、自分の考えを数学的な表現を用いて説明する力を育てていくために、グループ活動など自分の考えを表現する機会を設定していく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	52.2	48.8	48.1
	粒子	55.0	54.4	52.6
	生命	67.9	63.7	61.5
	地球	64.0	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.6	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	59.7	55.7	54.8
	観察・実験の技能	52.7	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	62.7	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

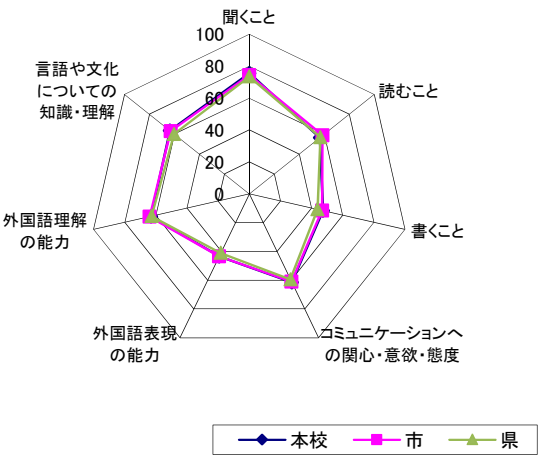
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は県平均より4.1ポイント、市平均より3.4ポイント高い。 ○「光の性質」で、光の進み方の作図や、音の高さの調節方法は十分に理解できている。 ●「物質の状態変化」で、おもりにとはたらく重力とばねの伸びとの関係をグラフに表すことについて課題が見られる。	・実験結果をグラフに表す方法を再度確認し、繰り返しグラフ化を行い、技能の習得を図っていく。 ・見ることが難しい事象は、ICT教材を利用して理解を深めていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的 to 実施し、基礎的事項の定着を図っていく。
粒子	平均正答率は県平均より2.4ポイント、市平均より0.6ポイント高い。 ○「身の回りの物質とその性質」で、金属に共通する特徴、密度の求め方について正答率が高い。 ●「物質の状態変化」で、実験の結果から蒸留で集められた液体について考えることについて課題が見られる。	・予想や考察をする時間を確保して考えを文章で表現し、さらに他者の意見と比較する場面を設定していく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的 to 実施し、基礎的事項の定着を図っていく。 ・数多くの問題を解かせ、様々な形式の問題に慣れさせていく。
生命	平均正答率は県平均より6.4ポイント、市平均より4.2ポイント高い。 ○「植物」の問題で、マツの花粉の特徴や、シダ植物とコケ植物の違いについて正答率が高い。 ○「動物」の問題で、軟体動物について正答率が高い。 ●「動物」の問題で、両生類の呼吸についてやや課題が見られる。	・動物の分類に関して、図書室の本やタブレットを利用して調べ学習を行い、分類表の作成など主体的な学習を通して、知識の定着を図っていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的 to 実施し、基礎的事項の定着を図っていく。
地球	平均正答率は県平均より12.6ポイント、市平均より14.6ポイント高い。 ○「火山」の問題で、火山岩のつくりやでき方、火成岩と火山の形について正答率が高い。 ○「地層」の問題で、堆積岩の特徴、示相化石による当時の環境について正答率が高い。	・火成岩、堆積岩、地層について、特徴をわかりやすく説明することを意識し、一層のレベルアップを図っていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的 to 実施し、基礎的事項の定着を図っていく。 ・発展的な問題を積極的に与え、更に学力向上を図っていく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	75.6	74.4	73.5
	読むこと	56.6	58.7	56.9
	書くこと	47.4	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	61.5	61.0	59.4
	外国語表現の能力	43.5	43.5	41.1
	外国語理解の能力	63.2	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	63.6	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は県平均より2.1ポイント高く、市平均より1.2ポイント高い。 ○対話の内容を聞き取り適切に応答すること、英文の概要を聞き取ることがよくできている。特に、「いくつか持っているか」の質問に対する答え方が身に付いている。 ●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英文で答えることに課題が見られる。	・ALTやJTEが話す英語を意識して聞くよう習慣付け、常活動でのスモールトーク、英問英答、洋楽を聞くことなどを継続することで、生徒たちがより多くの英語を聞く機会を作っていく。 ・授業や単元末テスト・定期テストでのリスニングを継続して行い、英文を聞き英文で答える活動を増やしていく。 ・スピーキングテスト(英会話テスト)を実施し、質問の意図を正確に捉え、適切に答えることを強化していく。
読むこと	平均正答率は県平均とほぼ同じで、市平均より2.1ポイント低い。 ○英文の情報を読み取り、正しい答えを選ぶことがよくできている。現在進行形の疑問文の語法が身に付いている。 ●疑問詞whoseの語法理解や、対話の流れと資料から適切な語を判断することに課題が見られる。	・教科書の長文読解・対話文読解を活用し、まとまりのある英文や対話文の情報を正しく読み取る練習を増やしていく。 ・指示語が具体的に示す事柄を正確に捉える練習、資料と英文を関連づけて読み取る練習を継続して行っていく。 ・まとまりのある英文を読み取るための語彙力を定着させるため、継続的な単語練習を行っていく。
書くこと	平均正答率は県平均より3.5ポイント高く、市平均より0.6ポイント高い。 ○否定の命令文を書くこと、疑問詞whoを使い人物を尋ねること、自分の出身地を紹介する文を書くことがよくできている。 ●自分の出身地について、さらに説明する文(3文以上の英作文の3文目)を書くことに課題が見られる。また、1割が無回答であることも課題である。	・基本文を音読し書く練習を繰り返し行うことで、英語の文構造を正しく理解し、語順を意識して英作文ができるよう指導していく。 ・語彙の並べ替え問題や穴埋め問題などのドリル活動を多く取り入れることで、英文を書く機会を増やし、書く習慣が身に付くよう指導を行っていく。 ・テーマに沿ってまとまりのある英文を書く活動を、定期的実施していく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」は82.5%、「家で、学校の授業の予習をしている」は24.2%、「家で、学校の復習をしている」は44.1%が「はい」と回答しており、市の平均よりもそれぞれ7.4ポイント、5.8ポイント、6.4ポイントと大きく上回った。家庭学習が習慣化しつつある。

○●「授業時間以外の1日あたりの勉強時間」は、普段(月～金)で1時間以上の合計は75.8%、休みの日(土曜日や日曜日)で1時間以上の合計は82.5%と回答しており、市の平均よりも3.2ポイント、2.9ポイント上回った。いずれも「1時間以上、2時間より少ない」の割合が高く、2時間以上となると、市の平均よりも割合は低かった。このことから、家庭学習に毎日取り組んでいるが、2年生の目標時間である2時間を確保することができていないという傾向が見受けられる。家庭学習の習慣は多くの生徒で身に付きつつあるので、今後も毎日の家庭学習ノートの提出を継続していくとともに、効果的な学習内容や学習方法等の紹介を含めた指導をしていく。

●「学校の授業時間以外の読書時間」は、「全くしない」が33.2%と回答しており、市の平均よりも9.0ポイント上回っている。また、「1か月に、何冊くらい本を読むか」の質問に「1冊も読まない」の回答率は18.5%で、市の平均よりも5.5ポイント上回っている。朝の読書を除いた回答の可能性はあるが、あまり本を読まない傾向が伺える。校内読書週間や「おすすめの本の紹介」等を利用して、一層の啓発をしていく。また、朝の読書においては、ねらいを分かりやすく伝え、目的をもって取り組めるよう指導していく。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的回答率は92.4%、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は94.8%、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」は97.6%、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」は83.4%、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」は92.4%、「授業を集中して受けている」は92.8%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」は84.3%であり、それぞれ市の平均肯定回答率を上回った。生徒たちは、全体的に授業に真剣に臨み、前向きに学習に取り組んでいることがわかる。学校全体で、「宇都宮モデル」を意識した授業改善を行ってきた成果が表れてきている。今後は、タブレットを効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める工夫を行っていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業に向かう基本的な学習態度の定着	授業2分前着席、基本姿勢、「はい」という返事、話の聞き方等、授業に集中させるための基本的な学習態度について指導している。	「授業を集中して受けている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が92.8%で、市平均より1.2ポイント、県平均より2.1ポイント上回っている。
基礎・基本の確実な定着	「宇都宮モデル」を活用し、授業では本時の目標を提示し、めあてを達成するための効果的な指導法を工夫している。また、本時の学びを振り返らせ、自己の変容の自覚を図る活動を行っている。 毎週水曜日をチャレンジデーとして、帰りの会で小テストを行い、間違えた問題のやり直しをするなど、基礎的事項の定着を図っている。	「授業の中で、目標が示されている」の質問に肯定回答した生徒の割合が85.8%と、市平均より9.9ポイント、県平均より5.8ポイント上回っている。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は83.4%で、市や県の平均より約3ポイント程上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」を配付し、自主学習ノートを毎日提出するように指導している。また、学習だよりでの啓発やベストノートを掲示することで、より効果的な学習の仕方について、意識を高められるよう指導している。 定期テスト前に「授業・家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ、学習時間を意識した家庭学習ができるように指導している。	「家で、学校の宿題をしている」の質問に肯定回答をした生徒の割合は82.5%で、市の平均を7.4ポイント、県の平均を8ポイント上回っているが、「決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は50.2%で、市の平均より11.7ポイント、県の平均より8.6ポイント下回っている。 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は64.0%で、市平均より2.4ポイント、県平均より1.7ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は58.3%で、市平均より12.4ポイント、県平均より11.4ポイント下回っている。 平日の読書時間については、もっとも割合が高いのは「全くしない」と答えた生徒が33.2%で、市や県の「10分以上20分より少ない」と比べて読書時間は短く、「2時間以上」と答えた生徒の割合は、市より1.5ポイント、県より2.4ポイント下回っている。	学校図書館の活用やタブレットの効果的な活用について、指導していく。	読書量を増やし、問題を読み取る力を高めたり、各教科の授業において、自分の言葉で表現する活動を取り入れたりするとともに、タブレットを効果的に使う機会を増やしていく。 学級文庫の充実、貸出ワゴンサービスなど、学校図書館を活用し、朝の読書の時間を充実させるようにする。 図書室のレイアウトを変えたり、書籍の入れ替えをするなど、読書をしやすい環境づくりに努めている。